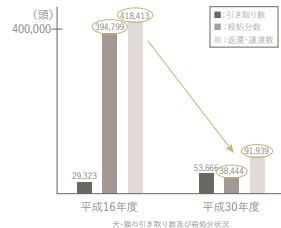


Re:Life

—廃校活用による保護動物の殺処分問題の解決—

私の研究は2つの問題への興味から始まった。1つ目は保護動物が殺処分され続けていることであり、2つ目は少子高齢化の影響による廃校の増加である。全く異なる視点の2つの問題を並置して見ることで解決の糸口を見つけないかという研究に取り組んだ。

PROBLEM



犬・猫合わせた引き取り数は平成16年度からの15年間で殺処分数とともに減少したものの、未だに約4万頭が殺処分されているのが現状である。また日本の公立小学校は、少子高齢化の影響で毎年約500校が廃校となり、地域にとって大きな問題となっている。

SDGs×PROBLEM



殺処分と廃校の問題が様々な達成目標に関係し、複数の同時解決を目指す。

PROPOSAL

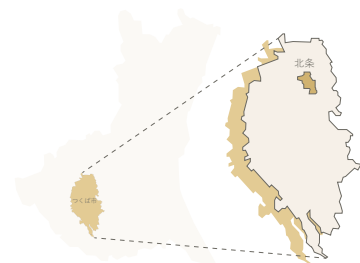


保護動物の多くが嫌悪施設である保健所や動物愛護センターに在る。そうした施設を日常的に訪れやすい場所とすることで、多くの人々が保護動物について知る機会を提供すると同時に里親を探しやすくする。訪れやすい保護施設をつくる上で、かつて地域の核であり学ぶ場所でもあった廃校が活用できると考えた。

SITE

選定条件：動物の殺処分・引き取り数が多い/少子高齢化が進んでいる/動物が駆け回れる広いグラウンドがある/周辺に動物関連施設がある

①都道府県・市町村の検討



犬・猫の引き取り数・殺処分数
各都道府県の高齢化率の伸び
茨城県が高い数値を示す
2020年度の動物保護数
廃校の数
つくば市が特に多い

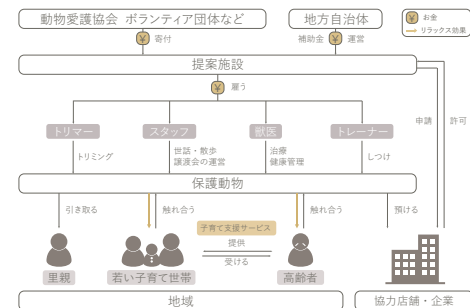
②地区の検討/北条市街地について



高齢化が進むつくば市筑波地区の8つの地域にその他の条件を合わせ、北条の「旧筑波東中学校跡地」を選定。

北条は交通結節点であり、対象敷地の南西には全長40kmに及ぶ自転車道「つくば霞ヶ浦りんりんロード」、北側には筑波山や宝篋山行きのバスも通る。

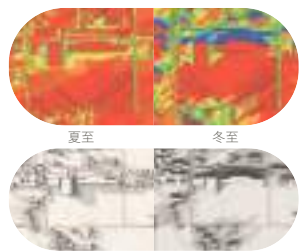
SYSTEM



施設は主に動物愛護協会やボランティア団体からの寄付、地方自治体からの補助金によって運営・管理される。また、テレビやインターネットの情報発信によって世界中を対象としたクラウドファンディングを資金調達の一つとする。

PROCESS & CONCEPT

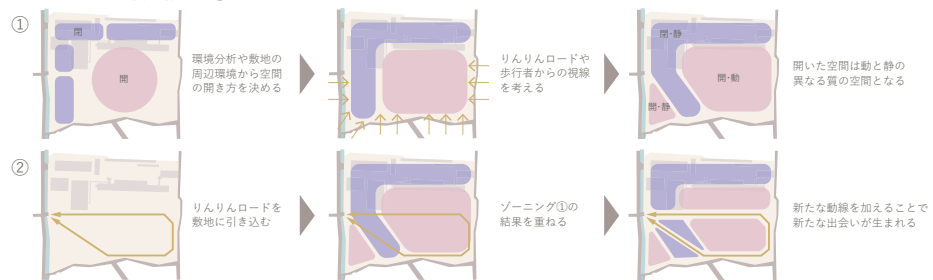
日照解析



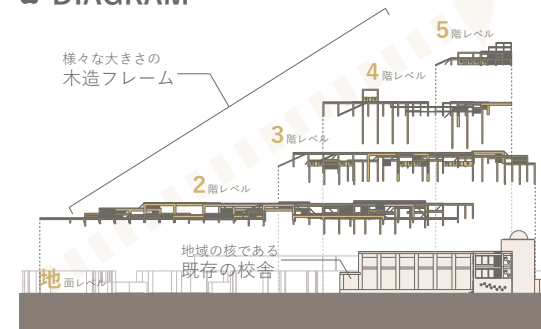
影解析



ゾーニング ⇒ 「地面に溶け込む」を設計コンセプトとする。



DIAGRAM



地域の核である既存校舎を最大限活用するために、校舎と異なる構造である木造を取り入れた。

フレームを様々な大きさにすることで、人や動物の大きさに寄り添う地面に溶け込むようなデザインを可能にする。

PLAN



